

造影 MRI 検査を受けられる方への説明

1. 造影 MRI 検査

造影 MRI 検査とは、ガドリニウムを含んだ薬を血管内に注射して行う MRI 検査で、病変の存在や形状などがより詳しく描出され、診断に大変役立ちます。

2. 造影剤の副作用

検査に際しては、その時点での症状や以前にかかった病気、家族の方がかかった病気などに注意しながら安全に検査が行われるように努めておりますが、検査中あるいは検査後しばらくしてから下記のような副作用症状が起きることがあります。

軽い副作用（頻度は約 0.04～2.4%）：

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、発疹、かゆみ、発熱、せき、など

重い副作用（極めてまれで 0.0025～0.0052%）：

まれにショックやアナフィラキシー様反応（例えば呼吸困難や血圧低下など）が生じることがあります。腎不全、透析中（eGFR<30）の方は腎性全身性線維症を引き起こすことがあります

以下の既往がある方は造影剤の副作用が生じる頻度が比較的高く、症状が強く出る場合もあり、造影 MRI 検査を行わないことがありますので、必ず口内の記入をお願いいたします。

- a. 今までに造影剤による副作用を起こしたことがある方
- b. 気管支喘息などのアレルギー性疾患のある方
- c. 他の薬剤過敏症のじん麻疹などのアレルギー性疾患のある方
- d. 腎不全の方、透析中の方

3. 妊娠および授乳中の方、小児の方について

妊婦と胎児及び低出生体重児、新生児、乳児又は 2 歳未満の幼児に対する造影 MRI 検査は安全性が確立されていないため、MRI 検査で得られる有益性が危険性を上回ると判断された場合のみインフォームド・コンセント後に検査を行います。また、授乳中の方はガドリニウム造影剤が極わずかに乳汁中へ移行するため、造影検査後 24 時間は授乳を控えてください。

4. 造影 MRI 検査を受けられた方へ

造影剤 MRI 検査を受けられた方の中には、検査終了後に遅れて副作用が出る場合があります（遅発性副作用）。症状が出るのは検査終了後 1 時間程度から数日後まで幅がありますが、現時点でその頻度は判明しておりません。

遅発性副作用は、頭痛、吐き気、めまい、発疹、かゆみ、じん麻疹など治療を必要とするものは少ないとされていますが、極めて稀にショックやアナフィラキシー様反応などの重い副作用が遅れて出る可能性もあります。また、上記の症状があらわれた場合には速やかに主治医などに連絡ください。

注. 以上の説明をご理解いただいた上で、別紙の同意書にご署名をお願いします。同意書に記入された後でも、造影 MRI 検査を拒否されてもかまいません。検査の際には、造影 MRI 検査同意書と MRI 検査チェックシートをご持参ください。なお、ご不明な点は下記にお問い合わせください。